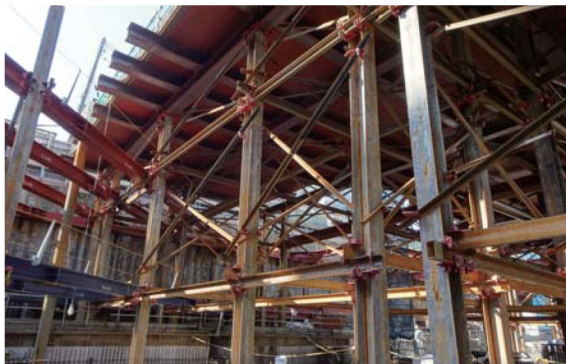


ブルマン金具

ブルマン工法

ブルマン工法とは、従来建設工事現場で鉄鋼仮設構造物(トラック構台等)を組み立てる手段として、仮設用鋼材(H形鋼・溝形鋼・山形鋼等)の接合部を溶接するか、又は孔をあけボルトナットで接合するか或いは、それらの併用で行われておりましたが、着脱自在なブルマン金具を用いることによって、組み立て解体が簡単に出来るように工夫した画期的な無溶接工法です。



(仮設物施工法特許登録第1276452号 ブルマン商標登録第1461302号)



万力式金具の両端に、先端を特殊加工した高力ボルトを取り付け接合する鋼材を挟んで締め付け、高力ボルト先端を鋼材に食い込ませ、このクランプ力によって接合します。

耐力の原点は、ボルト先端に中心部及び環状に突起を設けた高力ボルトが、相手鋼材に食い込んだ状態を支えとし、ブルマン金具本体(ボディ)の反力との結合にあります。

ブルマン工法の特長

溶接工ベテラン職人不足に対応

ブルマン工法は、ブルマン金具のボルトを締めつけ、緩めるだけで組み立て解体が出来ますからトルクレンチさえあれば素人でも簡単に施工出来ます。

強度はトルクレンチで心配無用

ブルマンなら、トルクレンチで締め付け強度(300N・m)を機械的に確認できますので、一定の強度(クランプ力)が保証されて安心です。

施工時間の大幅短縮 (ブルマンの最大メリット)

ある程度慣れて来ますと、組み立て時間は20%~30%、解体時間は50%~70%以上在来工法に比べ短縮出来ます。

雨天、水中でも施工可能

工程上、雨が降っていても鉄構仮設物の組立て解体をしたい事があります。又、川や海の中に鉄構仮設物を組みこまねばならない事があります。ブルマンは火を使わないため、雨の中でも、水中でも施工が可能です。

火気を嫌う現場にはもってこい

市街密集地、停車場構内、石油化学工場内、地下工事、山林原野の真っ只中…。このような現場での溶接作業は、火災やガス爆発の恐れがあります。ブルマンなら、火を使わないので安全です。

盛替、打って返しに便利

現場では、ブレースや水平継材を一次的に取り外したいことがあります。又、打って返して仮設物を反復使用する場合があります。こんな時にブルマン工法は最適です。